

教育目標

自ら考え主体的に学ぶ生徒
明るく思いやりのある生徒
健康でよく働く生徒

学校だより「岩瀬ヶ丘」



第 30 号

平成31年 3月22日発行

須賀川市立第二中学校

☎75-2910

発行責任者：校長 高崎則行

「なりたい自分」に近づく努力を大切に めざす姿を思い描いたら目をそらさない

「惜しまれつつ」という表現はあたらな。そう感じたのは私だけでしょうか。世界中の野球ファンの最大級の感謝と尊敬に包まれてマリナーズのイチローが引退を表明しました。その翌日が、皆さんの修了式だったということをお記憶にとどめておいてほしい、と話してから次のように修了式の式辞を述べました。



一昨日の「いじめに関する全校集会」、ご苦労様でした。その様子を見ていて、私は、「須賀川二中に新しい風が吹き始めたな。」という喜びを感じていました。企画・運営をしてくれた生徒会役員の息づかい、足音に、本気でやり遂げようとしている気迫のようなものを感じました。また、生徒会長の小川巧真くんの締めくくりの言葉を聞いて、「校風や伝統が確実に継承され、発展していくことを確信しました。また、津金教頭先生からもすばらしい講評をいただきました。「一人一人の違いを認め合う」という課題が示されましたね。「みんな違ってみんないい」という金子みすゞさんの詩がプロジェクターで映し出されました。自分と違っていてもまずは認めて受け容れる、相手の間違いや失敗も許すことができること、それを「寛容」といいます。

今まで、始業式や終業式で、各学年の代表が抱負や反省を述べてくれました。それを聞いて、自分の課題を明確にして、しっかりと改善できていることに感心させられました。代表の生徒のように、多くの生徒がこの1年間で確実に成長を遂げたのだと思います。

そこで、今日は、一つ新しい視点を加えて考えを深めてほしいと思います。

こうだったらいいなあという姿と現在の姿を比べてその違いを知り、その違いを埋めるために何をすればいいかということ、これを「課題」というのです。こういう学校や学級にしたいなあという姿と比べて、よりよい学校・学級にするために実行すべきことが課題なのです。ですからまず初めに、こうだったらいいなあという姿をしっかりと思い描いて、それから目をそらさないということが成長のカギになるという視点を大切にしてください。

私は、この2年間、「なりたい自分」に近づく努力ができる生徒を育成したいと考えてきました。こんな自分になりたいという姿とこれまでの自分の姿とを比べて、「なりたい自分」に近づくために実行しなければならないこと、それが自分自身の課題です。その課題解決の物語が、皆さんの次回作です。卒業生に期待したように、皆さんの次回作も最高傑作になるように期待しています。須賀川二中と皆さん一人一人の次回作に大きな期待を寄せて式辞いたします。

初 給食試食会を実施

3月18日（月）、文書で参加を呼び掛けていた「給食試食会」を実施しました。

平常は食器類が不足して実施が難しかったので、3年生が卒業した後に実施することでその問題をクリアし、実施したものです。

20名の定員に6名の方が参加されました。校長も加わって7名で会食を楽しみました。

食後、栄養教諭から給食の衛生管理やお弁当の時の栄養バランスの話をし、参加者から「給食献立の作成」「給食のカロリー」「地産地消」などに関する質問も

出て、たいへん有意義な会になりました。来年度も計画しますのでより多くの参加をお願いします。



第3回日本漢字能力検定合格者

漢字検定の合格者を以下にご紹介します。今回は、残念ながら合格できなかった生徒が多めでしたが、挑戦する生徒が多くなったからこそであると特筆しておきます。あきらめずに今後も頑張ってもらいたいと思います。

準2級	和田 拓真②	
3 級	伊藤 由華②	小笠原逸姫②
	岡部 真依②	轡田 紫依②
	杉原 主悦②	野崎 千聖②
	福島 歩音②	星 葵②
	松谷 一花②	
4 級	安 斎 光②	岡島 直輝②
	佐久間美奈①	鈴木 愛梨②
	高島 萌梨②	外川 洸太①
	根本 結衣②	武 藤 楓①
	柳沼 優花②	安田 吏伯②
5 級	伊藤 春菜①	大河原 陽①
	鴨 居 凜①	菅野 流暉①
	佐藤 日向①	古川 葉月①
	山寺 虹輝①	(○に数字は学年)

新装滑川橋の橋名板を 大山奈々花さんが揮毫

県道須賀川二本松線の滑川に架かる道路が高く、橋が建設中であることは、皆さんご存じのことでしょう。

この新しくなる滑川橋の橋名板の文字は、3年生(卒業生)の大山奈々花さんが県中建設事務所の依頼により筆を執ったものです。



今は、パソコンで整った活字を様々な大きさにプリントアウトできますが、手書きの文字には、オンリー・ワンの個性がにじみ出たよさを感じます。大山さんの筆文字は、校内の掲示物としてよく披露され、生徒だけでなく、私たちの目を楽しませてくれました。後に続こうという生徒が、腕を磨いていることも知っていますので、今後も楽しみです。

子どものSOSに気づいたら 学校または専門の相談機関に

長期休業期間はお子さんの生活や心情に変化の起きやすい時期です。特に、「春休み」は新年度の生活に対する不安が大きくなります。

保護者の皆さんがお子さんの悩みや変化に気づいた場合は躊躇せず学校にご相談ください。誰でも結構です。相談しやすい職員にご連絡ください。また、連絡してもつながらない場合や緊急を要する場合は専門の相談機関を利用することもできます。左に掲載したのは、県教育委員会のホームページにあるものです。なお、須賀川市や警察にも次のような相談機関があります。

須賀川市すこやかテレフォン	0248-75-1919
こども課家庭児童相談室	0248-88-8115
生活課市民相談室	0248-88-9132
県警少年相談窓口ヤングテレホン	024-526-1189

さらに、児童生徒によるインターネット上の書き込みも心配されますので、気になる書き込みを察知したら、同様に相談してください。連携して子どもたちを守りましょう。

子どものための24時間電話相談

「ふくしま24時間子どもSOS」
0120-916-024



いじめなど困ったことがあったら、一人で悩まず、電話で相談してください。
24時間いつでも電話できます。
電話料金はかかりません。

いじめ問題や不登校、体罰などの教育相談電話

「ダイヤルSOS」
0120-453-141

福島県教育センター

月～金 10:00～17:00



- 子どもも大人も相談できます。
- 名前を言わずに相談できます。
- 秘密を守ります。
- 電話料金はかかりません。
- 内容によっては、教育センターで面接相談をすることもできます。



福島県教育委員会

